総本山長谷寺団体参拝と
飛騨高山の旅

平成 24 年 5 月 28 日～30 日

明王山　宝仙寺



平成 24 年 5 月 28 日

東京は晴れですがこれから向かう奈良方面は午後から雨が降るという予報です。
７時　東京駅ホームに集合。今回は総本山長谷寺から三重県長島温泉～
明治村～高山・郡上八幡の旅です。添乗は前回と同じ山口淳さんです。
新緑が美しい季節、新幹線は満席で、にぎやかな車中でした。
途中に見える景色は夏の季語にもある麦秋　見事な黄金色の麦畑が目に留まりました。



麦秋
東海道新幹線
車窓から

名古屋駅も東京駅同様工事中でバス乗り場が遠いところにあり大変に不便です。
名古屋から本来ならば名阪国道で昼食をとる場所まで向う予定でしたがリフレッシュ工事で混雑しているようなので名古屋から滋賀県を通り三重県の「針・道の駅」へ大回りをしました。
今回のバスの運転手さんは中川　光さん、ガイドさんは天童よしみ似のベテラン川口京子さんです。
針までは３つの川を渡ります。
木曽川～長良川（この川の河口は１日目に泊まる長島温泉近くです。）～揖斐川

美濃の長良川にてあまたの鵜を使ふを見にゆき侍りて（前詞）
面白うてやがて悲しき鵜舟かな（芭蕉４５歳の句）

これらの川を渡り終えたころ左側には養老山脈、右側にはあいにく見えませんでしたが日本百名山の伊吹山があります。
ガイドさんの流暢な関ヶ原の合戦の歴史また地元、滋賀のお話など聞きながら多賀のドライブインに着いて休憩を取りました。停まっている車のプレートは当然ですが滋賀、岐阜が多くて旅に出ていることを実感します。

また途中、甲良町という町を通りましたが町のシンボルは亀です。



甲良町のマンホールは、亀をモチーフにしています。
各自治体がＰＲに工夫していることが読み取れます。

そして前々回団参で行った湖東三山の近くを通りながら伊賀上野へ向かいましたが、ガイドさんは滋賀県の方なので近江のことは特に詳しく近江商人はのこぎり商法（行商の往復ともに商品の販売と仕入れを行う　という無駄のない商業活動。そして行商によって一定の販路と資本をつくる。）で商いをして全国でも有名な高島屋、布団の西川、ワコールなどがその代表的なお店と説明してくれました。当初の予定には、いくらか遅れましたが昼食を終え午後１時に出発　御本山へ向かいます。



前回は雨宿りをするほどの雨の出迎えでしたが、今回はさわやかで快晴のお山で

す。
もう一ケ寺の団参と重なったため、先に大講堂でお茶の御接待、教務執事の登坂僧正様のお話をお聞きしました。去年の両陛下御行幸啓でお二人をお迎えするにあたっての山内職員の様子、そして真言宗豊山派全寺院、檀信徒にとっていかに名誉なことであるかなど伺いました。山内は牡丹も咲き終え、今は“てっせん”が盛りでした。アジサイが満開になるのももう間もなくでしょう。
本堂では法務執事川俣僧正様と専修学院生、研修生の僧侶たちによる法要を厳修いただきました。いつもながら若い僧侶たちの声は体の奥底までしみました。観音様のおみ足のもとでは皆さんそれぞれの思いがかなうようにお参りされました。



長谷寺の“てっせん”

今晩の宿泊宿は三重県桑名の「長島温泉」です。
一大レジャーランドで目の前には大きな観覧車があります。
夏には広大な駐車場もいっぱいになるほど混雑するそうです。
夜はおいしいお料理と温泉で朝からの疲れをとり明日に備えて早めに床につきました。

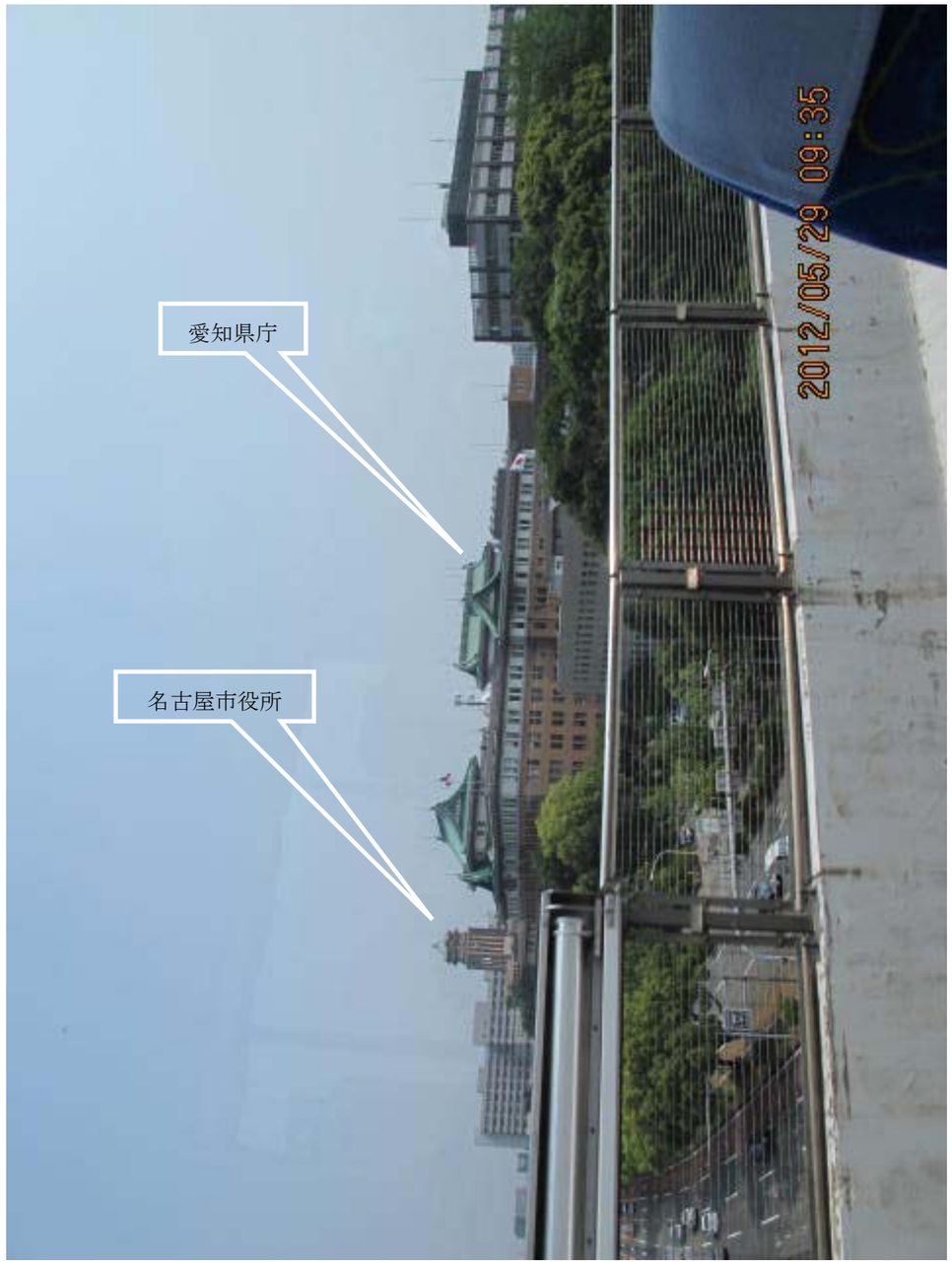
5 月 29 日　　晴れ
名港トリトン(※)を通り明治村へ向かいました。



港には三菱、新日鉄といった大きな会社の工場が建ち並んでいます。

※名港トリトン
平成 9 年伊勢湾岸自動車道の開通に伴い名港中央大橋、名港東大橋、及び名港西大橋が建設されました。
三つの橋は、それぞれ赤、白、青に色分けされており、愛称を募集した結果、多数の応募の中から選ばれました。
「トリトン」が海の神「ポセイドン」の息子であることや。「トリ」が「三つ」を意味する「tri-」に通じることからこの相性が使用されることになりました。橋長はそれぞれ西から 758m、1170m、700m に及び、世界的にも大規模な往復 6 車線の海上斜張橋梁群です。また、世界有数の長大斜張橋が三橋連立しているのは世界的にも珍しいものです。

名古屋官公庁街には中日新聞、市役所、県警、県庁が並んでいて中心街であることがわかります。



春日井あたりから山の景色が増え、徳川幕府が灌漑用として作った入鹿池を通り、明治村に到着しました。





明治四十二年石川啄木が暮らした理髪店「喜之床」（文京区本郷：現在も「理容アライ」が営業中。）標識が設置されている。
当時の建物は、昭和五十五年「明治村」に移築された。

説明してくれるため時間が足りなくなりそうなので宝仙寺のお檀家さまが数人熱心な聞き役になって下さったおかげで残りのみんなは各々自由に見物しました。聞き役の皆様ありがとうございます。
各建物には幕末から明治時代に新しい時代を築くため必死にあらゆる世界で生きてきた人たちの思い、香りがいっぱい詰まっていると感じました。宝仙寺歴代住職たちが通った巣鴨の大正大学（旧宗教大学）の車寄せもあり住職も母校の往事を偲んでいました。



明治村内の野ばら



明治四十一年に新築されたものである。
昭和四十三年二月大正大学本館が取り壊される際に、明治村に移築・保存されている。

最近は以前に比べ観光客が減ったらしくゆっくり観光できました。
専属ボランティアガイドさんがついてくれたのですが一つ、一つを大変に丁寧にお昼は村内の「碧水亭」にてすき焼きをいただきました。
バスに乗り今夜の宿のある高山に向かう頃にはポツポツ雨が降り出しました。



愛知県一宮市から富山県礪波市に抜ける東海北陸自動車道は、山地部を走るためトンネルが多い。
（下り５６、上り５４）

５６ヶ所のトンネル中
２０番目を示しています。



車窓からはきりの花が
見えます。


きりの花(参考)



途中飛騨位山分水嶺を通りました。木曽川に合流して伊勢湾に注ぐ飛騨川、神通川に名を変えて富山湾に注ぐ宮川の源流です。このほかにもこの辺りには日本の人口を半分に割ったあたりという「まんなかの里」という地域もありました。高山には「さるぼぼ」という人形があちこちで売られており昔は子供をあやすものであったが今は子供の安全を願うために作られるようになったそうです。朝市でも売られていましたが大量に工場などで作ることは許可されないのですべて一軒一軒手作りです。なるほどよく見るとそれぞれ微妙にちがっています。



高山ではまず、ミュージアム「まつりの森」に行き、さまざまなからくり人形や世界一大きな太鼓を見学しました。

（日本三大美祭の１つ、高山祭。　高山祭の魅力は、美しい祭屋台 にあります。このミュージアムでは、飛騨の匠の協力のもと、伝統文化と新しい技術の融合で生まれた、豪華絢爛な平成のまつり屋台）



今晩の宿は、高山陣屋のそばにある「本陣平野屋花兆庵」です。二日目ということもあり夜の食事は恒例のカラオケで自慢ののどを披露してくださる方もあり大いに盛り上がりました。

5 月 30 日　　晴れ

朝は早起きをして一人朝市めぐりをしました。
派手ではありませんが銘々到着した順にテントを張りまだ取れたての野菜や手作りのさるぼぼがならべてありました。一番いいなあと思ったのはこの花束です。仏花ですが自然のお花がたくさん束ねてあり、きっと仏様もよろこばれるとおもいました。





幕末の幕臣山岡鉄舟も父の赴任にともないこの高山で育ったそうです。
（(鐵舟、やまおか てっしゅう)：幕末の幕臣、明治時代の政治家、思想家。 従三位勲二等子爵。剣・禅・書の達人としても知られる。 鉄舟は号、他に一楽斎。通称 は鉄太郎（鐵太郎、てつたろう)。諱は高歩（たかゆき)。一刀正伝無刀流）..



若女将の素敵な笑顔に見送られて高山を出発です。

高山をあとにして郡上八幡に向かいました。

郡上八幡はうだつ（梲）のあがる町といわれています。うだつとは、隣家への類焼を防ぐための工夫で二階部分の側壁から張り出すようにして立てた防火壁で、材質を漆喰のような燃えにくいものにすることによって、隣家に火が燃え移るのを防ぎます。宿場町のように、隣家と密接して家が立ち並ぶところでは、大変に有意義です。



うだつの上がる街並み





車窓からの白山連峰は、まだ真っ白です。

郡上八幡は山内一豊の妻千代の故郷で水のきれいなのどかな町でした。
郡上八幡博物館では踊り手に習いながらみんなで曲に合わせて踊りました。
郡上踊りは誰もが踊りの輪に入ることができて見よう見まねで踊れるようになるそうです。





皆さん真剣な表情で、踊っています。





町内をきれいな水が流れ、清々しさを醸し出しています。



郡上八幡のサンプル工場で作った天ぷら。　まるで本物です！

吉田川のせせらぎの音を聞きながら名物のおそばをいただき名古屋駅へ向かいましたが少し時間が早かったので刃物で有名な関に立ち寄りました。ここは敵に襲われないように関所を設けたことから関と名付けられたそうで赤穂浪士の討ち入りの刀はすべて関のものといわれています。
短い時間でしたが関刃物センターで正しい刃の研ぎ方を教えていただきました。その甲斐あって、以来宝仙寺の包丁は大変によく切れるようになりました。皆様のお宅はいかがでしょうか？

六月に入り梅雨を迎え　間もなくお施餓鬼、お盆の季節となります。
二年に一度ですが皆様とご一緒させていただき御本山のお参り、名所観光ができますことを幸せに思います。
また次回の団体参拝にもぜひご参加くださいますようお願いいたします。
体調を崩しやすい時期でございます。くれぐれもお身体大切にお過ごしください。
平成 24 年 6 月吉日

（記：富田記代）